

様式第 9

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
那須塩原市	那須塩原市	平成 28 年度～ 令和 2 年度（5 年間）	平成 28 年度～ 令和 2 年度（5 年間）

1 目標の達成状況

(ごみ処理)

指 標	現状 (割合※1) (平成27年度)	目標 (割合※1) (令和3年度) A	実績 (割合※1) (令和3年度) B	実績/目 標※2	
排出量	事業系 総排出量	16,070 t	14,159 t (-11.9%)	13,409t (-16.6%)	139.5%
	1 事業所当たりの排出量	2.75 kg/事業所	2.42 kg/事業所 (-11.9%)	2.29 kg/事業所 (-16.7%)	140.3%
	生活系 総排出量	27,814 t	26,957 t (-3.1%)	26,739t (-3.9%)	125.8%
	1 人当たりの排出量	192.9 kg/人	189.6 kg/人 (-1.7%)	199.5 kg/人 (3.4%)	△200.0%
合 計 事業系生活系総排出量合計	43,884 t	41,116 t (-6.3%)	40,148t (-8.5%)	134.9%	
再生利用量	直接資源化量	3,869 t (8.8%)	3,558 t (8.7%)	1,801 t (4.5%)	4300.0%
	総資源化量	6,221 t (13.9%)	6,118 t (14.5%)	4,277 t (10.5%)	△566.7%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	14,148 MWh	13,237 MWh	14,443 MWh	
最終処分量	埋立最終処分量	4,546 t (10.4%)	4,413 t (10.7%)	5,156 t (12.8%)	800.0%

※1 排出量は現状に対する増減割合、直接資源化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量+集団回収量に対する割合を記載。

※2 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、(実績の割合-現状の割合) / (目標の割合-現状の割合) を記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成27年度)	目 標 (令和3年度) A	実 績 (令和3年度) B	実績/目 標※3	
総人口	118,076	117,102	116,762	—	
公共下水道	汚水衛生処理人口	64,668	70,027	66,922	42.1%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	54.8%	59.8%	57.3%	50.0%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	2,517	3,747	1,291	△99.7%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	2.1%	3.2%	1.1%	△90.9%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	19,939	22,132	22,790	130.0%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	16.9%	18.9%	19.5%	130.0%
未処理人口	汚水衛生未処理人口	30,952	21,196	25,759	53.2%

※3 (実績の割合-現状の割合) / (目標の割合-現状の割合) を記載

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	101	生ごみ堆肥化の推進	那須塩原市	生ごみ処理容器等の設置を促進する。	H28～R2	<p>生ごみ処理容器及び機械式生ごみ処理機を購入した者に対し補助金を交付することにより、家庭から排出される生ごみの堆肥化等を促進し、その減量を図った。</p> <p>(期間中補助実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械式 70台</li> <li>・処理容器 127台</li> <li>・補助総額 2,311,200円</li> </ul> <p>また、ごみ減量化対策の一環として、市民へ機械式生ごみ処理機を貸し出し、実際に使用してその効果を体験することにより、機械式生ごみ処理機の普及を促進し、生ごみの自家処理の推進及びごみ排出量の削減並びにごみ減量意識の高揚を図った。</p>
	102	生ごみの水切りの推進	那須塩原市	生ごみの水切りを呼び掛ける。	H28～R2	<p>市内イベントで水切りネットを配布し、生ごみの水切りを呼びかけた。</p>
	103	レジ袋削減の推進	那須塩原市	レジ袋の削減、マイバッグの利用を促進し、キャンペーンを実施する。	H28～R2	<p>マイバッグコンテスト、標語コンテスト及びポスターコンテストを行い、受賞作品を市内イベントにて掲示し、レジ袋の削減及びマイバッグの利用促進を行った。</p>
	104	事業系ごみの減量	那須塩原市	事業者が自己啓発できるような周知を行う。また、展開検査を定期的実施し、情報交換を行い、廃棄物の適正処理の向上に努める。	H28～R2	<p>展開検査を毎年実施し、産業廃棄物の混入が見られた場合には指導を行い、適正処理の向上に努めた。</p>

105	ごみ処理の有料化	那須塩原市	ごみ処理の有料化を継続する。	H28～R2	有料化を継続している。
106	再生品の利用推進	那須塩原市	環境負荷を考慮したグリーン購入を促進する。	H28～R2	市の物品等調達において、グリーン購入調達マニュアルや調達目標に基づき、率先したグリーン購入に取り組んでいる。
107	粗大ごみの再使用	那須塩原市	搬入された粗大ごみをできるだけ補修して製品化し、利用拡大を図るため、定期的に展示・販売を実施する。	H28～R2	令和2年度は感染対策のために実施できなかったが、年に1回のペースで補修した粗大ごみを再生品として販売することができた。
108	集団回収の促進	那須塩原市	集団資源回収奨励金額の見直しを検討する。	H28～R2	見直しの検討材料とするため、県内における奨励金の実態を調査した。
109	廃食用油の再生利用	那須塩原市	拠点回収の利用拡大を図るため広報誌等やホームページで周知する。	H28～R2	広報及びホームページで周知するとともに、ごみ出しカレンダーやごみ分別事典にも掲載することで、より多くの市民への周知を行った。
110	単独浄化槽対策	那須塩原市	既存の単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を進める。	H28～R2	単独処理浄化槽からの転換 120基
111	排出削減の推進	那須塩原市	廃油ポット、三角コーナネット、拭き取り紙等の排出抑制用品の普及や無リン洗剤、せっけんの使用の啓発活動の強化を図る。	H28～R2	ホームページ等で、生活排水に対する啓発を行った。
112	し尿・汚泥処理	那須塩原市	し尿及び浄化槽汚泥の収集・運搬は、全て許可業者が実施し、処理は那須地区広域行政事務組合のし尿処理施設で行っており、今後もこの処理方法を推進する。	H28～R2	し尿及び浄化槽汚泥収集量 (kl) H28：24,629 H29：23,633 H30：24,065 R1：23,466 R2：23,331
113	最終処分	那須塩原市	那須地区広域行政事務組合のし尿処理施設より発生するし渣及び汚泥焼却残渣は、現状どおり埋立てによる最終処分	H28～R2	黒羽グリーンオアシス搬入量 (kg) H28：60,104 H29：50,943 H30：40,965 R1：39,370

				方法を推進する。		R2 : 44,892
処理施設の整備に関するもの	1	最終処分場整備事業	那須塩原市	最終処分場整備事業	R1 ~ R2	令和2年度に完成
	2	合併処理浄化槽設置整備事業	那須塩原市	合併処理浄化槽設置整備事業	H28 ~ R2	浄化槽設置 905基
施設整備に係る計画支援に関するもの	31	最終処分場整備事業（事業番号1）の計画支援	那須塩原市	施設整備基本計画策定	H29	平成29年度に策定
			那須塩原市	測量調査及び地質調査	H29	平成29年度に完了
			那須塩原市	生活環境影響評価	H29 ~ H30	平成30年度に完了
			那須塩原市	基本設計	H29 ~ H29	平成29年度に完成
			那須塩原市	実施設計	H29 ~ H30	平成30年度に完成
その他	41	市民、事業者、行政の情報交換	那須塩原市	日頃の3Rの取組について、事例の活用や周知、改善等を検討する。	H28 ~ R2	県の研修会に参加し、他自治体の取組事例に関して説明を受け、改善等の検討材料となる情報収集を行った。
	42	ごみ減量推進体制の充実	那須塩原市	ごみ減量推進員、ごみステーション責任者、ステーション利用者が協働できる体系を整備する。	H28 ~ R2	ごみ減量推進員にごみステーション現状調査を依頼し、地域内のごみステーション利用の実態を把握した。
	43	ごみ減量等協力事業所認定及び顕彰制度	那須塩原市	3Rを実施している、もしくはこれから実施する事業所は、条件を満たしていれば、ごみ減量等協力事業所として認定し、特に活動が顕著な事業所は表彰する。	H28 ~ R2	3Rに積極的に取り組んでいる市内8事業所を、ごみ減量等協力事業所として認定し、ホームページ等で事業所の活動を紹介している。
	44	環境学習による啓発	那須塩原市	ごみ減量、資源化の意識の向上を図るため、環境学習やごみ処理施設見学会、小中学校や市民団体等への出前講座を今後も継続する。	H28 ~ R2	那須塩原クリーンセンターでの小学校社会科見学のほか、地域の公民館で出前講座を実施した。
	45	広報やホームページ等による情報提供	那須塩原市	家庭や事業活動によって発生するごみの量や処理に要する費用、3Rに関する活動や情報について、より具体的に分かりやすい内容で広報誌やホ	H28 ~ R2	ごみ処理に関する情報を、広報誌に掲載し、周知を図った。

			ームページ等で提供する。		
46	環境イベントやキャンペーンの実施	那須塩原市	ポスター・標語コンテスト、マイバッグコンテスト、環境展などを継続して開催し、環境保全や3Rに関する意識の高揚、普及啓発を図る。	H28～R2	レジ袋削減に関するコンテストのほか、市内イベントにおいて啓発活動を行った。
47	ごみ収集カレンダー、分別事典の充実	那須塩原市	ごみ収集カレンダーやごみ分別事典が、誰もが分かりやすく、分別の徹底に協力しやすいものになるよう、内容の向上に努める。	H28～R2	ごみ分別事典を改定したほか、ごみ分別アプリの内容を更新し、利便性の向上を図った。
48	不法投棄対策	那須塩原市	本市では廃棄物監視員による巡回監視や不法投棄防止看板及び監視カメラの設置のほか、栃木県や警察等の関係機関との連携、ごみ分別アプリの通報機能の活用、郵便局やタクシー各社、森林組合との連携協定等により不法投棄未然防止や早期発見、早期対応に努めている。 今後も関係機関等との相互の連携を密にし、情報の共有化を図り、不法投棄対策の強化を図る。	H28～R2	廃棄物監視員による巡回監視や不法投棄防止看板の設置等を積極的に推進した結果、大規模な不法投棄の発生を抑止することが出来た。 また、栃木県や警察、他市町等の関係機関と緊密に連携したことで、適切な情報共有を図ることが出来、不法投棄の早期発見、早期対応に貢献することが出来た。
49	災害廃棄物対策	那須塩原市	東日本大震災を受け改定された「災害廃棄物対策指針（平成26年3月 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部）」に基づき、市地域防災計画を踏まえた災害廃棄物処理計画を策定する。	H28～R2	令和2年9月に災害廃棄物処理計画を策定した。

### 3 目標の達成状況に関する評価

#### <排出量>

生ごみ堆肥化やごみ処理の有料化の継続実施などごみの減量化を推進したことで、令和元年度には 26,093t まで生活系ごみ排出量が減少するなど一定の効果が得られた。

しかし、令和 2 年度及び令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により家庭で過ごす時間が増えたこともあり、生活系ごみの 1 人当たりの排出量が増加となった。

#### <再生利用量>

集団回収や廃食用油の回収等を継続的に実施し再生利用量の向上に努めたが、デジタル化により主な資源物であった新聞や雑誌の流通量が減少し、また、スーパー等での店頭回収が進んだことから再生利用量は減少傾向となった。

#### <エネルギー回収量>

基準年と比べてプラごみの割合が増加しており、また、生ごみの水切りや堆肥化による施策も影響し、ごみ質が高質ごみに寄っていたことから、焼却量が減少していても多くの熱を回収できたことで、目標値以上に発電を行うことができた。

#### <最終処分量>

ごみの総排出量も減っており、目標以上に近年の埋立量は減少していた（令和 2 年度：4,119t）が、令和 3 年度に施設に保管していた指定廃棄物を一部解除し、1,113t 埋立量が増加したことで、目標未達となった。

#### <生活排水処理>

合併処理浄化槽処理人口は目標を上回ることができ、未処理人口の減少に貢献することができた。

(都道府県知事の所見)

(ごみ処理)

- 生活系ごみについて、総排出量の目標は 25%以上達成されているものの、1人あたりの排出量が目標未達となっていることから、市民個人の人々の排出抑制及びごみ分別意識を醸成する方策に加え、実効性が見込める排出削減策の検討が望ましい。
- 再生利用量（直接資源化量及び総資源化量）の割合について、いずれも実績値が現状値に対して減少していることから、ごみ資源化状況の実態を分析することが望ましい。
- 最終処分量については、現状値に対して 610 t(総排出量に対する割合として 2.4%)増加しているものの、令和 3 年度中に指定が解除された指定廃棄物の埋立が増加要因であり、これを除いた、各家庭及び各事業所に由来する一般廃棄物の削減については達成されていると思料する。

(生活排水処理)

- 合併処理浄化槽処理人口は目標を上回ることができた。  
今後も単独処理浄化槽やくみ取り便槽から合併処理浄化槽への転換促進等を図ることにより、汚水処理人口普及率の向上に取り組んでいただきたい。